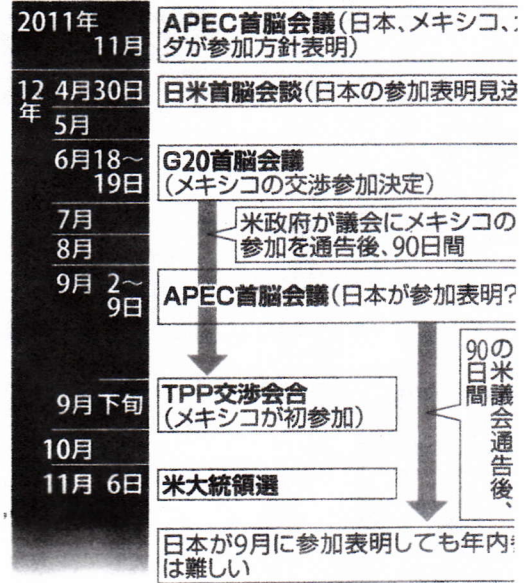
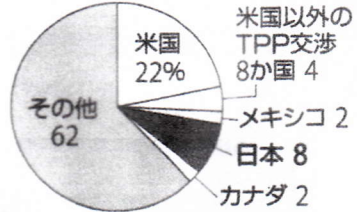


TPPを巡り想定されるスケジュール



TPP9か国と日本、メキシコ、カナダのGDPが世界に占める割合

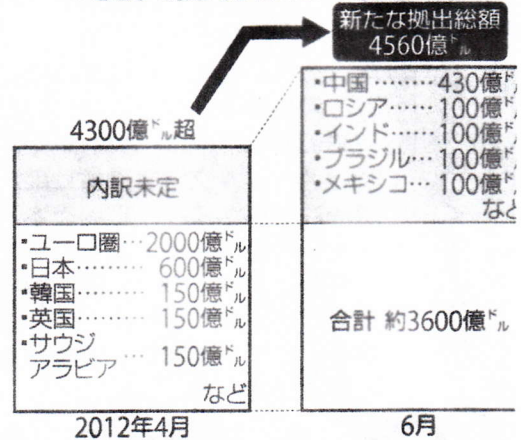


易自由化に熱心で、ともに北米自由貿易協定(NAFTA)を結んでおり、3か

られる相手ではない。日本は、米国にとって消費市場としては魅力的だが、コメや砂糖、乳製品などの重要品目を多く抱える。米側から見ると、高いレベルの自由化に対応できるのかという疑問をぬぐえない。米自動車メーカーが日本の交渉参加に反対しており、大統領選を前に、米政府が簡単に参加を認めるわけにはいかない事情も

新興国 発言

G20で拡大したIMFの資金増強



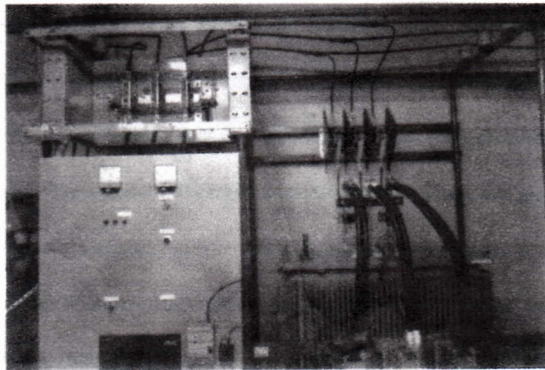
節電の夏 2012 ③

マンション丸ごと安く

東京電力の家庭向け電気料金は早ければ8月に値上げされるが、家計の負担を少しでも和らげようと、電気代を節約できる「節電マンション」が注目されている。

東京・世田谷にそびえる三菱地所レジデンスの30階建てマンション「ザ・パークハウス 三軒茶屋タワー」。全158戸の電気料金が、一般マンションに比べて1割程度安くなるのが特徴で、5月末に入居が始まったばかり。住民の桂川諒大さん(27)は、「住宅ローンと同じく毎月支払う電気代が節約できるのは魅力」と話す。

安さの理由は、工場やオフィスのようにマンション丸ごと



①「ザ・パークハウス 三軒茶屋タワー」には大口電力の契約のための変圧器が設置されている。②三軒茶屋タワーの屋上に設置された太陽光発電パネル

ラボウマンション武蔵野では、エレベーターや玄関など共用部の電気代を年間29万円節約した。52戸の管理組合理事長を務

める渡辺菊華さん(53)は「住民同士の話し合いと(節電の)情報収集のおかげで、料金が値上げされても節約分で吸収できる」と話す。

2010年12月から共用部分の契約を変更し、専用ブレーカーと安い夜間電力を利用した蓄熱機を設置し、年間の電気代を3割削減した。節電策を提案した節電コンサルタント「マンションECOサポートセンター」(東京・千代田区)には、各地のマンション管理組合から相談が相次いでいる。数十戸程度の中規模マンションならば、設備代など初期費用は数十万円、導入後のリース料を含めても10年間の節電額の半分程度で収まるといふ。集合住宅ならではの強みを生かしたマンションの節電への取り組みはさらに普及しそうだ。(香取直武)

と、大口電力の契約を結んでいくことだ。一般のマンションは各世帯ごとに個別に電力会社と契約しているが、大口契約の電

気料金は家庭向け料金よりも2〜3割安い。大口契約をするために、マンション地下には自前の変圧器を

設け、高圧電力を低圧に変換して各戸に配電している。屋上に廊下やエレベーターなどの電気を賄うため太陽光パネルを設置して発電している。三菱地所レジデンスは大口電力契約の節電マンションを今後40棟以上建設する計画だ。

一方、分譲済みのマンションでも節電の工夫がみられる。東京・福生市のヒ